

「 当院呼吸器・内視鏡センターの立ち上げにあたって 」

桶川 武蔵野徳洲会病院院長の桶川です。2026年4月、当院に呼吸器・内視鏡センターを開設いたしました。立ち上げの中心となりました副院長（呼吸器外科部長）の田中良太先生より、その構想や今後の展望についてお話を伺います。

田中先生は当院入職前、杏林大学 呼吸器外科等でご活躍でした。まずは、これまでのご経験からお聞かせいただけますか。

これまで肺がんをはじめ、呼吸器外科の診療に携わってきました。

大学病院では、胸腔鏡手術やロボット手術など、より専門性の高い手術にも取り組んできました。4月から武蔵野徳洲会病院にまいりましたが、これまで培ってきた経験を生かしながら地域の皆さんにより良い治療を提供していきたいと思います。

専門的な治療が必要な時はもちろん、呼吸器のことで気になることがあれば気軽に相談していただけるような、地域に根ざした診療を目指していきたいです。

桶川 次に、呼吸器・内視鏡センターについて、その特徴と、何を考えてこのチームを立ち上げたか、コンセプトや診療体制構築のご苦労などお聞かせ下さい。

病院に来る患者さんは、少なからず不安を抱えていらっしゃると思います。ですから、まずは患者さんのお話をしっかり聞き、何に困っているのか、何を不安に感じているのかを理解すること、また、必要な検査や治療があればできるだけ早く対応することを、大切にしています。

私は肺がんを専門にしていますが、呼吸器の病気は肺がんだけではありません。肺炎や膿胸などの炎症性疾患、気胸などの嚢胞性肺疾患についても、それぞれを専門とする先生方に加わっていただき、幅広い呼吸器疾患に対応できるチーム作りを心がけました。

私たちのコンセプトは「身体にやさしく、心に寄り添う医療」です。胸腔鏡手術やロボット手術など内視鏡を取り入れた、できるだけ体への負担が少ない治療を心がけるとともに、患者さんの不安や疑問にも丁寧に向き合い、一人ひとりの病状や希望に合わせてどのような治療がよいかを一緒に考えながら、地域の皆さんに安心していただける呼吸器診療を提供していきたいと思います。

まだまだこれから充実させていきたい部分もありますが、スタッフみんなで力を合わせ、患者さんに「ここに来てよかった」と思っていたけりようなチーム作りを目指します。

武蔵野徳洲会病院
院長 桶川 隆嗣

1991年杏林大学卒業。1998年同大学大学院医学研究科修了。
同大学医学部泌尿器科教授を経て、2021年4月より現職。
杏林大学医学部泌尿器科学客員教授。
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医。
専門分野は泌尿器腫瘍学、ロボット・腹腔鏡手術、泌尿器一般。

田中

田中

田中

田中

田中

田中

桶川 ありがとうございます。地域医療にどう貢献していくか、将来展望など、更にお話し頂けますでしょうか。

呼吸器の病気には、薬などで治療する内科的な治療が適している場合もあれば、手術が必要になる場合もあります。そのため、呼吸器を専門とする内科医と外科医が力を合わせて診療することが、とても大切だと考えています。

当院では、内科と外科の医師がそれぞれの専門性を生かしながら、日頃から連携して診療にあたっています。

桶川 シームレス、ボーダーレスな治療ということですね。

これからの医療は、病気を治すことだけがゴールではないと思っています。若い方には、病気をしっかり治して、できるだけ早く普段の生活や仕事に戻っていただきたいですし、ご高齢の方には、いつまでもその人らしく、笑顔で毎日を過ごしていただけるようお手伝いしたいと考えます。治療を終えた患者さんが、できるだけ早く、その人らしい生活に戻ることができるよう支えていくことも、病院の重要な役割だと思います。

桶川 最後に、副院長として考える「これからの武蔵野徳洲会病院」について、お考えをお聞かせください。

「何か困ったことがあったら、まずは“むさどく”に相談してみよう」地域の皆さんに、そう思っていたける病院を目指していきたいですね。

安心して頼っていただける病院であるためには、各診療科が専門性を高めることはもちろん、医師、看護師、コメディカルをはじめ、病院で働くすべてのスタッフが力を合わせ、一つのチームとして患者さんを支えていくことが大切だと考えます。

そして、私がもう一つ大切にしたいのが「教育」です。

私は大学で医学教育学にも携わっていますが、医療の質を高めるためには、そこで働く人が学び、成長できる環境をつくるのが欠かせない。若い医師や研修医だけでなく、看護師やコメディカルを含め、互いに学び合い、成長できる「人が育つ病院」を目指したいと思います。

呼吸器診療の充実に加え、桶川院長のもと副院長として、病院全体の医療の質を高め、スタッフが生き生きと誇りを持って働ける環境づくりにも力を尽くしたいと思います。

患者さんに選ばれ、地域に信頼され、スタッフにとっても「ここで働いてよかった」と思える病院へ。そして、人が成長し、その成長が次の世代へ受け継がれていく—そんな「人と医療がともに成長する病院」を、皆さんと一緒につくっていききたいと思います。

桶川 頼もしい限りです。よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

2026年9月14日

武蔵野徳洲会病院
副院長 田中 良太

杏林大学卒業。医学博士。
日本外科学会 専門医・指導医 / 日本胸部外科学会 認定医 /
呼吸器外科専門医 / 胸腔鏡安全技術認定医 /
日本臨床細胞学会 細胞診専門医・教育研修指導医 /
気管支鏡専門医・指導医 / がん治療認定医・指導責任者